

KSKP えのき

NEWSLETTER

地域で当たり前に暮らすために

編集人：社会福祉法人えのき会
理事長：古川 末子

京都市伏見区桃山町山ノ下44-8

075-605-0303 (TEL)

075-605-0310 (FAX)

e-mail: info@enokikai.or.jp

http://enokikai.or.jp

2021年4月 新しい場所で事業が始まります！

＝新事業整備概要＝

思います。職員に支援を受けながら生活できる拠点はあります。そのことが「地域の中であたり前に暮らす」ことになるのか。職員に

確かに、彼らの暮らしは豊かになっていると

ます。結果、日々三〇名以上の方が通われ、十二名の方が暮らしされる拠点になりました。週末には公共交通機関を利用して各地のテーパークに出かけ、生活用品、嗜好品を最寄りのショッピングセンターで各自が買物する、毎月どなたかが通院されるなど、それぞれがあたりまえになっています。週末には公共の施設や、生活用品、嗜好品を最寄りのショッピングセンターで各自が買物する、毎月どなたかが通院されるなど、それぞれがあたりまえになっています。

榎の家から南に徒歩五分・桃山町西町に重量鉄骨三階建ての事業所を整備する運びになり、八月からいよいよ建設工事が始まります。えのき会ではこれまで、榎の家・ハックベリ、さくらの家・ベルと重度障害者が暮らしやすい



守られているだけの環境に陥っていないか、地域住民と日常的に会いさつできる関係性があるのか、自然災害が発生すれば孤立しないか、桃山の地であたりまえに暮らすこと、豊かな人生にしていけるにはまだまだ法人理念を追求していかなければと感じています。

できるホールを整備し、職員が一同に集まれる、地域住民と交流できる、時には園児、児童、障害者、高齢者がホット一息つける空間として利用できるイベント会場として活用していく考えです。週末には気軽に立ち寄り、グチがこぼせる、お土産話ができるカフェなどの運用も検討できればと夢は膨らみます。

安心して暮らしたいくうえで、地域住民との接点をこれまで以上に意識していく必要があります。そこで今回は重度障害者の活動拠点整備から一歩抜け出し、従来に加え子育てに奮闘されるひとり親世帯や、介護負担が伴う高齢者を抱えられた世帯など、福祉ニーズに対応できる住宅五戸を二階に整備します。一階はさくらの家分室として、既存の事業所とも連携しそれぞれが特徴のあるティースービスとして再出発します。三階には七〇名収容



	(円)
土地取得	6700万
建築工事	2億4000万
備品整備	500万
合計	3億1200万

受けなければ整備できません。基本理念の更なる実現、そして「共生社会の実現」に向けたえのき会は歩んでまいります。みな様方からの暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

(統括部長 村上高久)



えのき会をいつもご支援頂きありがとうございます。

春先からの新型コロナウイルスの感染が拡大するなかで「緊急事態宣言」が出され「えのき会」の利用者さんも不安と緊張の中で「ステイホーム」しました。

＝えのき会をご支援してくださる皆様へ＝ 新規事業へご協力お願いします

ご家族も感染の恐怖と昼夜の区別なく続く介護に終着点が見えず、苦しい思いで過ごされた事と思います。また、自宅、グループホームで過ごさざるを得ない利用者さんにも大きなストレスであったと思います。

新型コロナウイルスがどう終息するのか先が見通せない状況ですが、1年生は2年生に、3年生は卒業へ向かって動いていきます。

来春、総合支援学校を卒業される

人たちも、えのき会の利用希望があり、受け入れ準備を進めているところです。

- ☆ 同封致しました赤色の郵便振替用紙をご利用ください。
- ☆ 当法人発行の領収書は、確定申告で寄附金の控除が受けられます。

社会福祉法人えのき会 00920-6-106339

1口 1000円 となっています。1口以上で どうかお願い致します。

桃山西町の建築計画では、地域で暮らすため必要な日中活動の場、デイサービス、グループホームと共に、親元から独立して地域の中で暮らすためのシェアハウス。「一人暮らし」も含めて、それらを準備しながら、地域での多様な暮らしをサポートするための準備をしています。来春3月、竣工予定です。

社会の中で弱者と言われる人たちが排除されることなく、人と人の繋がりの中で暮らせる、気持ちのよい地域社会づくりへ、微力ではありますが進んでいきたいと思

います。長年にわたり、えのき会を応援して下さいます皆様、大なり小なりコロナの影響がありますなか大変恐縮であります。この事業へのご支援の程お願い致します。

理事会、評議員会報告

2020年度5月理事会、6月評議員会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面での決議となり、監事監査も書面資料での監査となりました。いつも評議員の皆様をはじめ、理事、監事の役員の方々からご意見やご質問などがあつて、適度な緊張感のなかで議案審議が進むのですが事務的な決議となりました。審議終了後の緊張感が解けたなかでの本質を捉えた意見が聞けることがあります。それも、あらためて対面で決議することの意義を感じました。

決議事項（書面決議）

- ・2019年度事業報告承認
- ・2019年度収支決算報告承認
- ・評議員選任／解任委員の選任

（事務局 西山）



中庭で

明日こそ、天気にな～れ！

コロナウイルス感染拡大する中で

えのき会でも三月に南部の病院で短期入所を利用された通所者さんが、四月のはじめ発症された方との濃厚接触者に認定されたため、検査結果が判明するまで事業を自粛するなど、対応に追われる日々が始まりました。

結果的には感染されていませんでしたが、三密を避けて運営せざるをえないと判断し、できるだけ在宅可能な方は在宅、通所希望でも、活動場所を三か所に限定し午前・午後に分け一か所四名に制限し、一週間単位で利用者様の二一をを確認し通所日を調整していき

ました。また、複数の事業所を利用されるホーム入居者さんには、ホームに留まってもらいましたが、その間にも肺炎を患われ、回復が遅れたため検査を受けていただくなど、感染リスクを避ける調整に追われる状況でした。職員も在宅が長期にわたり不安を抱えています。時間の経過とともに利用者様のニーズにも変化があり、それぞれに耳を傾け、受け入れ方法を検討した結果、現時点では感染された方はおられません。そのことが何よりも救いでありました。今後とも、改善すべきことは職員からの提言も含め検討し、日々の支援に取り入れていく所存です。再度、三密を避けた取り組みが必要になるかもしれません。それぞれのご意向を伺いつつ丁寧に対応していく考えです。今後ともご理解、ご協力のほどお願い致します。（村上）

新入職員は大変です！「コロナ禍もあって」...

新入職員もコロナ禍の影響を受けて入職した早々、数日間の自宅待機などがありました。働き始めたばかりで、ちょっとした戸惑いもあったと思いますが、これから、どうぞよろしく！

事務局 秋山 智子

私は、今までの働き方を変えようと思い、転職活動を始めました。

そんな中、えのき会の求人を見つけ、見出しには「男性も育児取得」と書いてありました。面接の際に、「三人子供がいます。急な休みや早退など色々あります」と正直に言ったところ、理事長は、あっさり「えのきでは、大丈夫よ！女性も外に出てきちんと仕事をしないと！」としっかり言って下さいました。そして、「うちの法人は、障害を持つ母親たちで立ち上げた法人なのよ」とも。だから、本当に法人は「お母さん目線」であふれています。働く母親にとって、こんな有難く心強いことはありません。実際に勤務してみると、職員の方は子供の急な発熱や、介護等でお休みされています。それを、みんな力でカバーし合いながら勤務しています。

男女雇用機会均等法が施行されて年月は経ちますが、女性の家事育児負担はまだまだ大きいでしょう。ですが、働くお母さんというのは、子供たちに強くもたくましくもうつるでしょう。

私自身も色んな経験を重ね、いつの日か仕事に助けてもらう事があるかもしれませぬ。

新しい仕事に新しい仲間！そして、来年度には新規事業がスタートします！

法人と共に、私自身も一緒に成長していけたら、そして何より仕事を楽しみながら前向きに取り組みたいです！

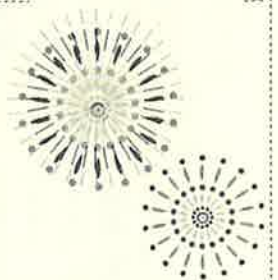
さくらの家 榎原 真由佳

私が福祉の道に進もうと思ったきっかけは、大学でのボランティア活動でした。「地域に寄り添った活動」をテーマに、子ども食堂や小学校・自治会支援を行ってきました。ボランティア活動を約3年間続けて、地域に入っていく難しさとともに、「いつも、ありがとう。」と感謝される喜び、やりがいを感じました。その時に、「誰かの役に立つ仕事がしたい。」「寄り添った支援がしたい。」と思い介護の道を選びました。

そして、色々な施設を見学する中で、「絶対に、ここで働きたい。」と感じたのがえのき会でした。アットホームな雰囲気の利用者さんと職員が笑顔で溢れている。一対一の支援で、利用者さんと深く関わる事ができる。そんなえのき会に魅了されました。

入職して3カ月が経ち、私は毎日の利用者さんとの関わりで成長させていただいています。利用者さんとの距離の縮め方に、大変悩んだ時もありましたが、私の周りには「いつでも相談してね。」と声をかけてくださる先輩職員がいます。

そして、利用者さんの笑顔や言葉は、そうした「悩み」より何倍も大きいものだと思います。先輩職員のように、利用者さんとの信頼関係を築き、安心感を与えられるような職員を目指していきたいです。



榎の家 楠田宏紀

今年は新型「コロナウイルス」感染の影響で卒業式がなくなり、大学を卒業したという実感がなく、これからどうなるかという不安をかなり感じていました。私自身が福祉系の大学を卒業したわけでもなく、就職活動も12月から本格的に始めたため、なおさらだったのかもしれませんが、そういった不安の中でも、えのき会の職員さんと京都府福祉人材サポートセンターの職員さんには、とても助けていただきました。そもそも私がえのき会を知ったのは、京都府福祉人材サポートセンターのプログラムに参加したことからでした。そこでは社会人1年目の人が福祉の現場で長く働くことのできる認定を受けた法人を紹介し、就職後も相談に乗ってくださったりしました。

えのき会の職員さんには福祉の現場について右も左もわからない私に、基本から私の素朴な疑問まで丁寧に教えてくださいました。私があえのき会に入職したいと思った理由である一人一人の利用者さんとじっくりかかわることは、先輩職員さんのフォロワーにより安心してかかわっていくことができました。

今までのかわりの中で、自分のこと、えのき会のこと、利用者さんのことが、だんだんわかってきて、この仕事を続けていけるという自信がついてきました。日々学び、そのたびに自分の成長を感じていくことが今とても楽しいです。

敬称略・順不同

ご寄付のお礼とご報告

2019年6月～2020年6月末

- 西村 昌樹
- 山ノ下町内会
- 清水 斎
- 樋口 貴子
- 土田 恵理子
- 若桐の会
- 君の店
- おばちゃん家・お客様のタイガーマスク
- 勝見 博光
- 大谷 敏夫
- 武内 志眞子
- 植田 健司
- 井上 充子
- 朱常分店 バナナ
- 奥田希充子
- 京都鳥羽ライオンズクラブ
- 玉ねぎ、じゃがいも
- 田邊鈴恵 じゃがいも
- 儀貝英雄 じゃがいも
- 橋本加津代 りんご
- 伏見稲荷大社 お米60kg
- 一勉会 スノーレンゲツツ

今回は、コロナ感染に対応するための衛生グッズ(マスク・除菌用ソープなど)を多数寄付頂きました。

- ニック(株)
- (株)アメリニティ
- 積水ハウス(株)
- (株)ハウスプロジェクト
- オペレーション・プレッシング・ジャパン



いつもご支援頂きましてありがとうございます

お詫び

前号二ユースレターNo.118で、えのき会の職員紹介のなかで「グループホーム世話人として8年目を迎えます」というタイトルで文章を寄せて頂きました「中井知子」さんのお名前がぬけておりました。お詫び致します。



コロナの影響で学校が休校になったり、会社の倒産で無収入になり、3度の食事にも事欠く人が、随分増えているとメディアが報じています。えのき会として3月に、フードバンクの緊急支援の取組を応援するために家庭で食べずに余っている食料を集めて、分配されるセンターに届けました。

私たちにできることは、些細な事ですが、同じ地球に同じ時間を生きている者同士、繋がり助け合える社会でありたいと思います。

今は、コロナの影響で人の接触が難しい時ですが、皆様のお力をお借りしながら、継続していきたいと考えています。ぜひご協力ください。



「忖度」他人の意思を推察し遂行すること。そこには、他人の意思だけではない、忖度する側の利己的な思惑・小さな悪が、こっそり忍び込む。

ドイツにも忖度と同じような意味合いで、「先回りした服従、悲劇を生む」ということばがあるそうです。

真相はわかりませんが、安倍政権以降、特に顕著に、政権のトップに官僚たちが先回りして、いろいろと小細工する(?)ことが多くようです。それが政治、延いてはこの国の歪みとなって表れている気がします...

田中康夫さんが、「行政や政治も本来は、お金などにはとても換算できない、人間として生きていくことの確かさを実感し合える営みなのだ」と思っています。(古川)

編集後記

「父母の会」という障害児者と親の団体があります。

30数年前のこと、子どもが養護学校に入学し、しばらくたった頃、すでに会員として活動されている先輩の母親たちから「入会して障害のある子どもたちのために一緒に活動しませんか?」。お誘いを受けました。

障害児者の親の会として、福祉制度や養護学校を建設する運動、社会啓発活動や行政との交渉など障害児の環境を整えるために、力を注いでこられたお話を聞かせて貰いました。

一つ一つ努力を積み重ねてこられた時代、それを受けとって何かをプラスして、次の世代へバトンを手渡すことが、私たちの役割なのだと思いました。

あれから随分長い時間が経過しました。

当時より制度や障害のある人たちの環境は、より良いものになったでしょうか? 障害のある人たちには、幸せに生きてこられたでしょうか。次の世代へバトンを渡す時がきています。

前の世代も、今の世代も共通の願いは、障害のある人、その家族らが、ただ幸せに生きてほしいと思うだけです。

(f)

□ 発行人・関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2
東興ビル4F



□ 編集人: (福) えのき会 理事長 古川末子
(法人本部)
〒612-8002
京都市伏見区桃山町山ノ下4-4-8